

2

Topics

B型肝炎ってどんな病気? ～ワクチンが必要な理由～

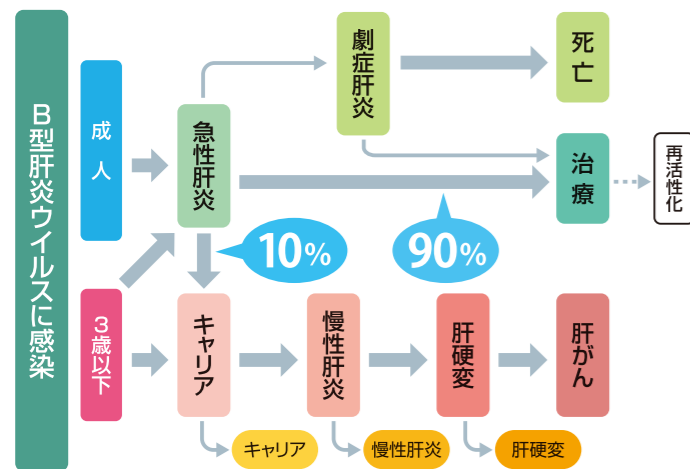
2015年1月9日、『B型肝炎ワクチン、平成28年度にも定期化へ』。厚生労働省の専門家部会の方針を受けての報道がありました。当会がプレスセミナーで乳児のB型肝炎ワクチン接種について済生会横浜市東部病院の藤澤知雄先生にご講演いただいたのが2010年11月、ホームページやポスターを作成し、大々的にキャンペーンを始めたのが2011年3月。それまでは小児科で一般的でなかったB型肝炎ワクチンが、このころから当会会員の医療機関を中心に徐々に接種されるようになりました。この4年のうちに、B型肝炎はVPD(ワクチンで防げる病気)であることが広く知られるようになり、いよいよ2016年度には定期接種になる見込みです。定期化を前に、B型肝炎がどのような病気、なぜワクチンが必要なのかをあらためて考えていきます。

●子どもとB型肝炎

全世界では、約20億人のB型肝炎ウイルス(HBV)感染既往者と約3億人の感染者があり、毎年約60万人がHBV感染関連肝疾患で死亡しています。日本ではHBV感染者は130-150万人と推定されています。小児では、とくに3歳未満の子どもが持続感染となりやすく、HBVキャリアとして過ごさなければなりません。

B型肝炎ウイルスに感染しただけでは、ほとんどは症状が現れません。キャリアの中には、自覚症状がなく、自分が感染源になることも、キャリアであることすら知らない人が少なくありません。そのため本人が感染に気付かず、大切な家族やパートナーにうつしてしまうことがあります。実際に小さな子どもが感染したケースで、いつ、どこで感染したかがわからない例も少なくありません。

感染年齢によるB型肝炎の経過の違い



出典：独立行政法人 国立国際医療研究センター 肝炎情報センターより一部改変

●B型肝炎ウイルス感染は完全には治らない

B型肝炎ウイルスに感染すると、感染者の一部がキャリアとなり、キャリアのうち約10%の人は慢性肝炎を発症し、肝硬変、肝臓がんへと進行する危険性が高くなってしまいます。肝硬変になると3人に1人が肝臓がんを発症しています。肝臓がんはがんの中でも死亡率が高く、がん全体の死亡者のうち男性で14.3%(第3位)、女性で8.6%(第4位)を占めています。その割合は、この30年で3倍にもなり、今後も増加が予想されています。



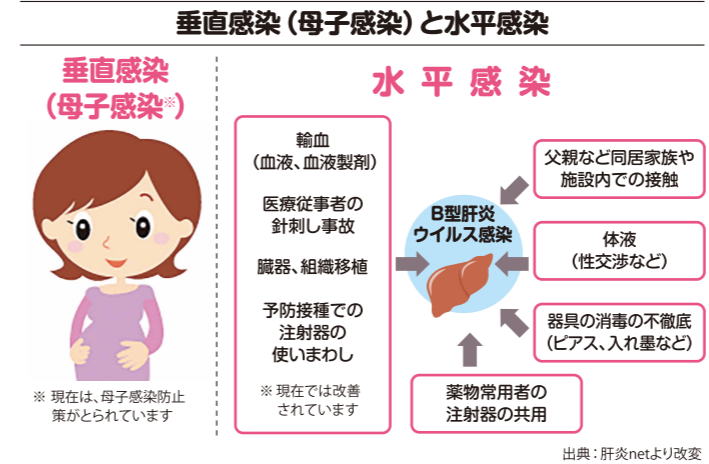
また最近問題になっているのがHBVの再活性化です。過去にHBV感染があり、劇症肝炎が治癒したと考えられていた人がリウマチやがんの治療で免疫抑制や化学療法を伴うと、HBVが増殖し、急性肝炎(de novoのB型肝炎)を発症することがあります。

●若者に広がる急性肝炎

また、HBVの遺伝子タイプはA~Jの10種あり、タイプにより病状などに差があることが最近の研究で分かってきました。日本に多いC、Bタイプは、大人が感染し倦怠感や黄疸など急性肝炎の症状が出て、多くは自然に回復し慢性化しないのが特徴です。ところが、90年代半ばから増えてきたAタイプは、急性肝炎の症状は軽いがキャリア化しやすい特徴があります。もともとは欧米に多いタイプでしたが、グローバル化や国際交流により若者を中心に感染が広がっています。

●母子感染防止事業の限界

1985年に母子感染防止事業が始まった当初は、これにより約40年で日本のB型肝炎が撲滅できると高らかに宣言されました。しかし、実際には、いまなおB型肝炎は多くの日本人を苦しめています。小児のB型肝炎の原因としては、母子感染防止策での見落としがあるための垂直感染(母子感染)と父親や家族からの水平感染が増えていることが挙げられます。



Report

「B型肝炎について知ってほしいこと」患者さんとその保護者の方から

NPO法人VPDを知って、子どもを守ろうの会とNPO法人日本小児肝臓研究会では、2014年10月にB型肝炎の患者さん、患者さんの保護者の方にアンケート調査を実施しました。アンケートに寄せられた「B型肝炎について伝えたいこと」をご紹介します。

B型肝炎ウイルスに感染することは人生の選択肢が減ってしまうということです。私も発症により仕事を辞めざるを得ませんでした。キャリアは多くのスポーツ競技でプロ選手になることが出来ません。発症せずに生きていても、住宅ローンを借りることは困難です。

一生飲み続けなければならない薬や治療を生涯にわたってするのかと不安になったり、肝硬変や肝臓がんが死んでいくのかなと思ったりしながら毎日を過ごしています。その時子供が小さかったらと思うと不安でたまりません。

みなさんのお子さんやお孫さんに私のような体験をしてほしいでしょうか。私はして欲しくありませんし、する必要はないと思います。もっと、B型肝炎に対する世間の理解とサポートが充実し、このような体験をすることなく過ごせる世の中になって欲しいと願っています。

多くの先進国は乳児のときにワクチンを受けられます。残念ながら母子感染を100%防ぐことはできません。母子感染でキャリアになった娘も、自分と同じ思いをするのかと思うと胸が痛みます。せめて、他の人への感染は防ぎたいですし、誰にも、このような思いをして欲しくはありません。

B型肝炎ワクチンは歴史もあり、安全だと聞いています。任意だからと言って必要性が低いと解釈せず、ワクチンを受けさせてあげてください。予防接種で防げるものなら、防いであげたいです。

B型肝炎は根絶できる病気です。ワクチンを皆が受けることにより、子どもたちは守られ、私達患者も不当なつらい思いをすることなく、社会の一員として生きていくことが出来ます。

出演 & 記事 & 取材協力	●NHK(2014.11.3)	●日本経済新聞(2014.12.11)	●メディカル朝日11月号(2014.11.1)
	●フジテレビ系列ドラマ「残念な夫。」第5話(2015.2.11)	●読売新聞(2015.3.9)	●「miku(ミク)」2014年12月号
	●朝日新聞(2014.10.25)	●ママテナ(2015.1.27)	●「Happy-Note」特別号
	●東京新聞(2014.11.5)	●日経DUAL(2015.2.10, 3.3)	●「fme」2014年冬号
	●産経新聞(2014.11.15)	●健康百科by メディカルトリビューン(2015.2.26)	●「ゲンキノモト」2015年3月号
		●「monami」2015年3月号	